

龍雲寺 花園会報

二〇一四年 正月号

監修／細川晋輔 編集／細川要子

○妙心寺 URL <http://myoshin.com/>

○龍雲寺 URL <http://home.catv.ne.jp/rr/ryuunji/>

〒一五四一〇〇〇三

東京都世田谷区野沢三二三八一

TEL〇三―三四二一―〇二三八

FAX〇三―三四一八―九八六三

あいさつ

新命住職 細川 晋輔

平成二十六年の新春を迎えました。皆様方におかれましては、それぞれの思い出新年を迎えられたことと存じます。

思い返せば昨年は、去年は龍雲寺にとっても、私にとっても生涯忘れられない一年となりました。それは、十一月に晋山式が挙行され、龍雲寺の第十二世の住職を無事に拝命させて頂いたことです。あらためまして、ご協力下さった方、ご参列下さった方、残念ながらご欠席だった方等、それぞれたくさんの方々の御陰をもちまして無事に圓成することが出来たこと、深く感謝申し上げます。

父・景一和尚が晋山式を約四十年前に行った時には、先代の宗源和尚は病床であられ、父が住職になってすぐに亡くなられたそうです。それこそ、住職になるにあたり、先代に教えて頂きたいこと、相談したいことも沢山あったそうが、それは叶わなかったそうです。

そう考えると、私は若くして住職となりましたが、父が元気なうちに住職を交代できたことは、まことに心強い限りでございます。

「晋山式の式次第」にも書いておきましたが、私のことは「新命（副住職）」、父のことは今まで通り「方丈さん」と呼んで頂ければと思います。住職は交代しましたが、いい意味で変わりなく、今まで通り檀信徒の皆様とお付き合いできたらと、寺内一同願っております。

龍雲寺の住職となって初めての新年を迎えるにあたり、皆様にとって幸せな一年と成りますことを、心より祈念いたしました。ご挨拶とさせて頂き、一月七日の大般若でお目にかかれること楽しみにしております。

大般若会

平成二十六年一月七日（火）

於・龍雲寺本堂

午前十一時

御詠歌奉詠

午後十一三十分

法話

正午

法要 後昼食会

※お申し込み不要、会費は一家族二千元

今年も別便のご案内は出しません。皆さん

お誘いの上一人でも多くご参加下さい。

行事予定

一月 七日（火）大般若会

一五日（水）初釜

二月 八日（土）開山忌

二月 十七日（月）二十日（木）

三月 三日（月）五日（水）台湾三十三観音巡礼

三月 七日（金）東京教区奉詠大会（於・龍雲寺）

三月 十日（月）十三日（木）第八次四国八十八ヶ所巡礼①

三月 二十一日（金）彼岸会

四月 十二日（土）十四日（月）妙心寺参拝と伊勢の旅

五月 十二日（月）十五日（木）第二次坂東三十三観音巡礼①

五月 二十六日（月）二十九日（木）第八次四国巡礼②

六月 未定 第一三四回三峰榛名講

七月 十七日（木）施餓鬼会

八月 一日（金）三日（日）盆踊り大会（環七駐車場）

八月 十五日（金）十七日（日）第九次妙心寺と五山送り火の旅

九月 二十三日（火）彼岸会

十月 未定 第十一次天満敦子バイオリンコンサート

十月 十五日（水）十七日（金）全国奉詠大会

十月 二十七日（月）三十日（木）第二次坂東三十三観音巡礼②

第二次坂東三十三観音巡礼②

ご挨拶

閑栖住職 細川 景一

新年明けましてお目出度うございます。
本年も宜敷しくお願いいたします。

さて、古代の中国に、夏の桀王を倒して殷王朝を建てたと伝えられる湯王がおりました。その湯王は毎日手や足や顔などを洗い清める為に水を溜める水盤に、次の様な句を彫り込み日々反省したと云われています。

日に新たに、

日に新たに、

又日に新たななり。(大学)

今日のこの日には、昨日とは違う新しさがあり、明日という日にはさらに今日とは違う新しさが加わる様に、一日一日が自分にとって新しい向上の連続でありたいという意です。昨日より今日、今日より明日となにかを求めて前進してゆく。朝起きて洗面所で顔を洗う。鏡を見て昨日の自分と違う顔を見る。楽しいではありませんか。(景一)

『十牛図』について

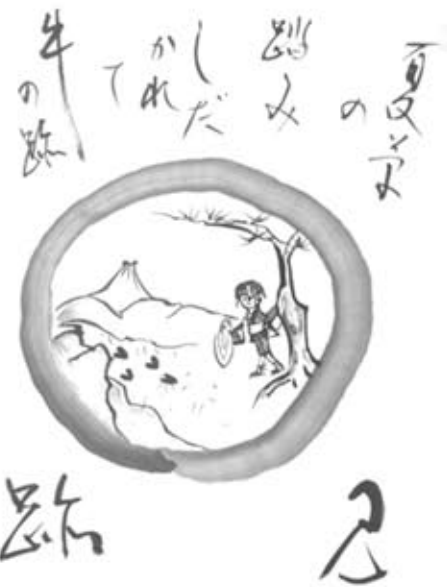
二、見跡(跡を見る)

「夏草の 踏みしだかれて 牛の跡」

坐禅や写経などの修行を積んだ結果、ボウボウ

と盛んに生い茂っていた草の様であった煩惱妄想が、図のように薄くなり、すっきりした様子がわかります。その中に私たちが目指すべき悟り(幸せ)である牛の足跡が見つかったという段階です。まだまだ本体の牛は姿形も見つからないが、やっと草が薄くなったことによって、その足跡は見つけることができたというところです。しかし、足跡を見つけたからと行って幸せになれるわけではない。この足跡を見失わず本体を探し当ててなくてはならない・・・まだまだ油断は禁物です。

「正月」の「正」という字には「修正」という意味もあるそうです。それは、正月の一月一日には自分の一年を振り返り、反省すべき所は反省して、修正してから新年を過ごすということです。みなさんも是非、新年にあたって探すべき牛を探してみてください。(細川晋輔)



晋山式の写真



募集中

◆花園会 禅・仏教講座ご案内

花園大学の先生方による、禅と仏教についての講座です。

一月 十八日(土) 西山 美香 氏

建長寺と円覚寺 — 鎌倉五山 —

野口 善敬 師

博多三利 (聖福寺・承天寺・崇福寺)

二月 十一日(火) 山川 宗玄 老大師

白隠禅師 坐禅和讃

☆会費 一〇〇〇円 (当日集金)

☆時間 午後二時〜五時

☆お問い合わせは龍雲寺まで

◆無相教会花園流御詠歌会員募集

一月二十七日(月)・二月二十五日(火)

三月 十七日(月)・四月 七日(月)

五月 八日(木)・六月 三日(火)

男性・女性どちらでも可

会費は無料、お弁当代六百円のみ。貸出用の御詠歌のお道具有り、見学自由、全員イス席で講習を受けます。自主練習 (不定期)。男性もどうぞ。

○他にも龍雲寺では囲碁の会・茶道部・法声会 (長唄・三味線)・獅子舞・子ども会・かっぱれ・ヨーガ・ピラティス等があります。



◆早朝洗心坐禅会 (申込不要)

毎週日曜日 朝六時半〜八時半

会費 無料

坐禅用のイスもご用意しています。

◆写経会 (申込不要)

毎月第二土曜日 一時〜四時

(但し、七月、八月はお休み)

納経料は 一卷五〇〇円 (龍雲寺に納経)

来られない方は、お写経をお渡しいたします。

でご自宅でゆっくりお写経をどうぞ。
イス席もご用意しています。

◆龍雲寺厚木墓地のご案内

開修寺墓苑内に龍雲寺檀徒用の墓地を造成しました。龍雲寺檀徒としてお付き合いをさせて頂きます。

A (一五〇×一五〇) 永代使用料二二五万円

B (一五〇×一四〇) 永代使用料二一四万円

ABとも納骨棺、塔婆立、拜石等の外柵工事費を含みます。

このままで直ちに納骨できます。右記の額を直接お寺にお納め下さい。詳細につきましては龍雲寺まで。

◆納骨堂 (お遺骨一時預り 無料)

墓地をお持ちでない方や転勤の多い方、将来落ち着き先がわからない方たちが、ご不幸があつて慌てて墓地を買われないように、落ち着いて考える時間を持つて下さるようという考えで十数年前に納骨堂を本堂の裏側に建てました。いつもお参りの方がいらしています。

◆NPO 東日本大震災復興支援

『浜ばっぱのぞうきん』

※龍雲寺にて浜ばっぱのぞうきんを置いてあります。 一組四〇〇円

募集中

詳しくは龍雲寺まで
お早めにお申し込み下さい。

◆温泉とグルメの旅

三月三日(月)～五日(水)

四国観音巡礼で以前宿泊した好評の宿、水明館・べにやさん・大安寺・越前大仏・長野方面へ。

◆第八次 四国八十八ヶ所巡礼①

三月十日(月)～十三日(木)

今年が開創一二〇〇年です。ご朱印ではなく、開創一二〇〇年を記念して、青いご朱印だそうです。特別御開帳が各寺であります。四回で満願となります。

◆東京教区 本山奉仕団参拝

妙心寺参拝と伊勢の旅

四月十二日(土)～十四日(月)

会費 六〇〇〇円(二名一室) 一月三十一日メ切り
☆新命が随行させて頂きます。大徳寺や伊勢神宮等、未公開寺社の特別拝観もあります。詳しくは新命まで問い合わせ下さい。

◆第二次 坂東三十三観音巡礼①

五月十二日(月)～十五日(木)

西国三十三観音・秩父三十四観音巡礼と坂東で百観音巡礼となります。二回で結願となります。

◆第八次 四国八十八ヶ所巡拝②

五月二六日(月)～二十九日(木)

◆第九次 妙心寺と五山送り火の旅

八月十五日(金)～十七日(日)

◆第二次 坂東三十三観音巡礼②

満願の旅

十月二十七日(月)～三十日(木)

大般若会とは？

唐の玄奘三蔵法師がインドから持ちかえり四カ年を費やして翻訳された最大の教典「大般若波羅蜜多經」六百巻を転読、依持する法要です。

仏前には、悪心を取り除く働きのあるといわれる「十六善神」の尊像を掛け人間としての真の幸福と世界平和を祈願する法要で、中国では長い歴史の中で鎮護国家と除災招福を願う重要な祈祷会とされてきました。

日本では文武天皇の大宝三年(七〇三)に行われた記録が「続日本紀」にあります。

新しい年を迎えて今年一年の息災を祈ろうではありませんか。

編集後記

○新しい年を迎えられて、皆様いかがお過ごしでしょうか？○昨年十一月の晋山式は、おかげさまで無事に終える事が出来、ありがとうございます。○準備段階から総代世話人・若い方々・書生さん達のお世話になりました。○六百人を越える方々の中を孫の泰弘、桃子は献華・献燈をさせて頂きました。○皆様に御詠歌は、もっと聴きたかったとか。茶道部は南薫亭でお抹茶を。子ども会やお稚児さん担当の方々は一三七人の子どもを相手に走り回り、消防団・綱引きは交通整理、お囃子と法声会の長唄・三味線は最高の出来栄でした。三十年前は住職と皆さんが長唄を始めていましたが、鶏が首を絞められた様な声でぬかみそが腐るのでは？と心配しました。住職は直ぐに辞めてしまい、他の皆様は今まで続けられて、凄いなと思いました。継続は力なり！○坐禅会の岡村さんから、方丈さんの碧巖録の話が二十年経ちましたとお話がありました。○下呂温泉・水明館さんとは長いお付き合いで、私が小学校の頃、古川大航管長様と侍衣さん、父の松原泰道と四人で泊めて頂き、初代の滝豊子女将に三つ編みを編んで頂いた思い出があります。芦原温泉べにやさんは滝晴子女将のご実家で前回好評のお宿に宿泊します。大安寺・越前大仏様を特別拝観の予定です。○毎年、埼玉県行田市の川上さんから無農薬のお野菜を頂いて粕汁を作ります。○子ども会のお餅つきは、三五〇人位来られました。○巡拝・巡礼等のお申し込みは、お早めにお願います。ぜひ直接龍雲寺まで、お問い合わせ下さい。○暮れにお寺でついたお供えのお餅はつき直してお汁粉に。大般若会でお目にかかれることを楽しみにしています。○山内一同皆元気です。お元気で。要子

龍雲寺 花園会報

二〇一四年 春彼岸号 監修／細川晋輔 編集／細川要子

○妙心寺 URL <http://myoshin.com/>

○龍雲寺 URL <http://home.catv.ne.jp/rr/ryuunji/>

〒一五四一〇〇〇三三

東京都世田谷区野沢三―三八―一

TEL〇三―三四二一―〇二三八

FAX〇三―三四一八―九八六三

ごあいさつ

閑栖住職 細川景一

今年の冬の寒さは格別でした。雪も例年になく多く、二週続いて大雪で、龍雲寺の境内でも久しぶりで氷も張り、霜柱も立ちました。雪もいつまでも残っています。

又彼岸会がやってきました。お彼岸会は、人それぞれが亡き人の思いを振り返るとともに、自分を高める為に努力する一週間です。

NHKの大河ドラマで、「軍師黒田官兵衛」が放送されています。彼は自ら「如水」と号し、水五則を掛けて座右の銘としていました。

私達もその生き方を学ぼうではありませんか。一、自ら活動して他を動かしむるは水なり

(他を指導し、物事をさせる為には先ず自ら実践すべきである。)

二、つねに己の進路を求めてやまざるは水なり

(自らの進路をいつも求め続ける積極性を持つべきである。)

三、障害にあつて激しくその勢力を百倍し得るは水なり

(少々の障害に当たるとも、力を落としたり、

落胆することなく、

次の機会を待つて力を蓄えるべきである。)

四、自ら潔うして、他の汚濁を洗い、清濁あわせ容るる量あるは水なり

(人の善悪を好き嫌いな、人の善悪はつかい手にあると心得べきである。)

五、洋々として大海をみだし、発しては雲となり、雨雪に交じり、霧と化し、疑つては玲瓏たる鏡となり、しかもその性を失わざるは水なり

(何時でも何処でも自分の信念は変えるべきではない。水は高きから低きに無心で流れます。如何なる障害物があろうとも、自在に流れを変えて、信じられない様な力を発揮して岩をも削り取つて流れていきます。)

春季彼岸会法要

平成二十六年三月二十一日(金)

於・龍雲寺本堂

十二時

御詠歌奉詠

十二時四十五分～法話(本山布教師)

十三時半

法要

※おはぎと、お漬物をご用意しています。どうぞお参り下さい。申し込み不要。

行事予定

四月 十二日(土)～十四日(月)

妙心寺参拝と伊勢の旅

五月 十二日(月)～十五日(木)

第二次坂東三十三観音巡礼①

五月二十六日(月)～二十九日(木)

第八次四国巡礼②

六月二十四日(月)～二十五日(木)

第一三四回三峰榛名講

七月 十七日(木)

施餓鬼会

八月 一日(金)～三日(日)

盆踊り大会(環七駐車場)

八月 十五日(金)～十七日(日)

第九次妙心寺と五山送り火の旅

九月二十三日(火)

彼岸会

十月 四日(土)

第十一回天満敦子バイオリンコンサート

十月 十五日(水)～十七日(金)

全国奉詠大会

十月二十七日(月)～三十日(木)

第二次坂東三十三観音巡礼②

十一月十七日(月)～二十一日(金)

台湾三十三観音巡礼

台湾三十三観音巡礼の旅

今回、龍雲寺で台湾三十三観音巡礼を主催するというので参加させて頂きました。龍雲寺の巡礼は、細川要子様を引率者として四国、西国、板東、秩父、奥州、北海道と国内の主要な観音巡礼をそれぞれ相当回数実施されてきました。初めての海外巡礼は総勢三十名もの参加となりました。

まず、台湾の各寺院で驚いたのはご本尊の観音様や仏様が何処も二層から五層程も有り金色や真っ白なお姿で非常に立派なことでした。また、三層造りの大きな本堂を擁するお寺もあり台湾の人たちの信心深さを感じました。今回は台北を中心に郊外を含め十寺の巡礼でしたが日本の巡礼のようなお灯明や納め札を上げることはなくお線香またはお焼香でした。どのお寺さんでもお経が終わると私達全員の席を設けて下さりお茶とお菓子のご接待やいくつのお寺では、いろいろなお土産も頂き欲待して下さいました。最後のお寺では日本から寄贈した観音像の台座に方丈様のお名前があり、一同大感激しました。台湾巡礼の楽しみに本場の飲茶、海鮮鍋、素食（ベジタリアン）などの食事と方丈様からと言うことで地元の紹興酒を沢山頂いたことです。本当にごちそうさまでした。また、夜は本場足裏マッサージに体を癒やし、巡礼でこんな贅沢をしていいのかなんて思いながら秋の第二回を楽しみにしております。（河合康夫）



龍雲寺 御一行様

故宮博物院

2014.2.18

河合康夫様は洗心坐禅会、四国巡拝、西国、板東等の観音巡礼に、いつもご夫妻でご参加されています。（要子）



龍雲寺 御一行様

報恩寺

2014.2.18

台湾巡礼は日本の観音巡礼とは異なり、金色や白色の仏様が多く、華やかで、蘭の花や沢山の花々に囲まれていました。お花にも金粉をかけたり、色々と飾りを付けていました。

『十牛図』について



三、見牛（牛を見る）

「牛の影 ほのかに見ゆる 夏木立」

夏の木立が生い茂るような、日常の慌ただしさの中に、生まれたときから皆さんがそれぞれ持っている本当の自分を、おぼろげではあるが見いだしたところ。

でも、まだまだ本物ではない。雪丸老師は「絵に描いた餅では腹はふくれぬ。」とおっしゃっています。図にあるように、綱を持った少女が牛のおしりをやっと思つた。綱を持つて探すということは、つまり自分と向き合うということです。

坐禅や写経などの修行をして自分と向き合ってみると、仕事や生活、その他諸々の関係等の悩みやストレスも薄くなり、やっと思つた自分の面影を見つかることができたというところ。次は、牛をその綱で捕まえなければなりません。せっかくのお彼岸です。皆様におかれましては是非一心にお参りして頂き、お墓や位牌の影に牛のお尻を探してみてください。

募集中

◆無相教会花園流御詠歌会員募集

三月 十七日(月)・四月 七日(月)
五月 八日(木)・六月 三日(火)

男性・女性どちらでも可

会費は無料、お弁当代六百円のみ。貸出用の御詠歌のお道具有り、見学自由、全員イス席で講習を受けます。自主練習(不定期)。男性もどうぞ。

○他にも龍雲寺では囲碁の会・茶道部・法声会(長唄・三味線)・獅子舞・子ども会・かっぱれ・ヨーガ・ピラティス等があります。

◆早朝洗心坐禅会(申込不要)

毎週日曜日 朝六時半～八時半

会費 無料

坐禅用のイスもご用意しています。

◆写経会(申込不要)

毎月第二土曜日 一時～四時

(但し、七月、八月はお休み)

納経料は 一卷五〇〇円(龍雲寺に納経)

来られない方は、お写経をお渡しいたしますのでご自宅でゆっくりお写経をどうぞ。

イス席もご用意しています。

◆龍雲寺厚木墓地のご案内

開修寺墓苑内に龍雲寺檀徒用の墓地を造成しました。龍雲寺檀徒としてお付き合いをさせて頂きます。

A (一五〇×一五〇) 永代使用料一二五万円

B (一五〇×一四〇) 永代使用料一二四万円

ABとも納骨棺、塔婆立、拜石等の外柵工事費を含みます。

このままで直ちに納骨できます。右記の額を直接お寺にお納め下さい。詳細につきましては龍雲寺まで。

◆納骨堂(お遺骨一時預り 無料)

墓地をお持ちでない方や転勤の多い方、将来落ち着き先がわからない方たちが、ご不幸があつて慌てて墓地を買われないように、落ち着いて考える時間を持つて下さるようという考えで十数年前に納骨堂を本堂の裏側に建てました。いつもお参りの方がいらしています。

◆NPO 東日本大震災復興支援

『浜ばっぱのぞうきん』

※龍雲寺にて浜ばっぱのぞうきんを置いてあります。 一組四〇〇円

募集中

詳しくは龍雲寺まで
お早めにお申し込み下さい。

◆第二次 坂東三十三観音巡礼①
五月十二日(月)～十五日(木)

西国三十三観音・秩父三十四観音巡礼と坂東で百
観音巡礼となります。二回で結願となります。

◆第八次 四国八十八ヶ所巡拝②
五月二十六日(月)～二十九日(木)

◆第九次 妙心寺と五山送り火の旅
八月十五日(金)～十七日(日)

◆第二次 坂東三十三観音巡礼②
満願の旅
十月二十七日(月)～三十日(木)

◆第一三四回 三峰榛名講

六月二十四日(火)～二十五日(水)
今年で一三四回目となります。初めての方も気軽に
に御参加下さい。

三峰榛名講とは？

龍雲寺では、毎年この時期に三峰・榛名講という
大切な行事があります。この行事は今回で134回目を
迎えました。しかし、この回数は記録に残っている
数字であり、実際は江戸時代から地元で行われてい

たとされています。講というのは、同じ神仏を祀り、
または参詣する同行者の組織のことを言います。

農村であった世田谷野沢にとって、「雨乞い」と
いうのは大変重要なものであり、毎年「あみだくじ」
で代表者を選び、村を代表してお参りに行くという
ものでした。

肅々と神社をお参りするというのは、とてもすが
すがしいものです。私たちが畳の部屋で落ち着き、
癒されるというのと同じではないでしょうか？日本
人としての心がそうさせると思います。お寺の団体
が神社をお参りする：おかしいと否定するよりも、
こんな文化は素晴らしい！と考えた方が、人生は豊
かになるような気がします。

榛名神社はパワースポットとしても最近有名にな
りました。お社の真上には、今にも転げ落ちそうな
大岩がございます。昔の人はこういう所に「神の仕
業」を見たのかも知れません。

細川晋輔



編集後記

○皆様いかが、お過ごしですか？○慣れない大雪
で大変だったと思います。昨年の晋山式の為に植
木屋さん達が太木の枝払いをして下さっていたお
かげで、木々は無事でした。生け垣や小さな木々
は何度も雪払いをしました。バラ園のバラの木は
雪の重さで地面に倒れていました。雪を払うと翌
日には元の姿になっていました。きつと少しづつ
雪が積もり、ゆっくり倒れて行ったからだと思います。
○台湾三十三観音巡礼は台湾の方々やガイ
ドさんも初めての山の上の寺等に、お参りに伺っ
た時に、お寺の方に、来てくれただけで嬉しいと
言われ歓迎を受けました。又、次回が楽しみです。
○第八次四国八十八ヶ所巡拝は今年が開創千二百
年で特別御開帳です。これから五十年、百年先に
しかないのが今年のお参りは貴重です○板東三十
三観音巡礼は現在三十名のお申し込みで定員にな
り次第締切ります。○晋山式で獅子舞をして下さ
った、お二人は素人の方で毎回練習を積まれて素
晴らしい出来映えだったと思います。獅子舞のポ
スターは昔、書生さんに獅子舞のかつこうをして
貰い私が描いた物です○お彼岸には、お子さんや、
お孫さん達とご一緒に、お墓参りや法要にいらし
て下さい。ご先祖様の大切さを教えて下さい。お
はぎを沢山ご用意してお待ちしています。山内一
同おかげさまで元気にしております。河津桜も七
分咲きです。○お彼岸会ではお目にかかれるのを
楽しみにしております。お元気で。要子



◆盆踊り大会
日時 八月一日(金)～三日(日)
時間 午後七時～九時
場所 龍雲寺環七駐車場

募集中

詳しくは龍雲寺まで
お早めにお申し込み下さい。

◆第九次 妙心寺と五山送り火の旅
八月十五日(金)～十七日(日)

◆第二次 坂東三十三観音巡礼②
十月二十七日(月)～三十日(木) 満願の旅

◆無相教会花園流御詠歌会員募集
九月 九日(木)・十月 九日(木)
十一月十三日(木)・十二月二十五日(木)

男性・女性どちらでも可
会費は無料、お弁当代六百円のみ。貸出用の御詠歌のお道具有り、見学自由、全員イス席で講習を受けます。自主練習(不定期)。男性もどうぞ。
○他にも龍雲寺では囲碁の会・茶道部・法声会(長唄・三味線)・獅子舞・子ども会・かつぱれ・ヨーガ・ピラティス等があります。

◆早朝洗心坐禅会(申込不要)
毎週日曜日 朝六時半～八時半
会費 無料
坐禅用のイスもご用意しています。

◆写経会(申込不要)
毎月第二土曜日 一時～四時
(但し、七月、八月はお休み)
納経料は 一巻五〇〇円(龍雲寺に納経)
来られない方は、お写経をお渡しいたしますのでご自宅でゆっくりお写経をどうぞ。
イス席もご用意しています。

◆第十一回 天満敦子ヴァイオリン・コンサート

日時 十月四日(土) 午後三時～
会費 三千五百円(当日集金)
会場 龍雲寺本堂(椅子席)
三時から整理券配布
お申し込みはFAX/電話・お葉書で。定員になり次第締め切ります。お抹茶・虎屋さんのお菓子・笹寿司をご用意しております。

編集後記

○皆様ががお過ごしですか? ○六月は、犬山で晋山式、翌日は福島で結婚式と幸福な忙しさでした。お仲人等で三十回近く着た留袖は毎回記念写真で同じ着物では………と思いましたが呉服屋さんにも、こんなに沢山着て貰える留袖はありませんと云われ仕立て直しをして着ています。この留袖は今まで一度も雨に降られた事ありません。亡母が季節を選ばず長く着られるようにと、光琳の芝垣の柄を選んでくれました○五山送り火の旅で、ご本山妙心寺法堂での、お精霊送りや送り火は、新盆を迎える方や、ご先祖供養をされる方はぜひ、ご参加下さい。毎回参加されている方も○境内に、ねじり草が沢山咲いています。可愛い可憐なピンクの花で、お花をご覧になった方々から感動したと言われ嬉しく思いました○無相教会花園流の御詠歌の試験を本山で受験。おかげさまで準講師一級に合格しました。龍雲寺支部は五十名の会員さんがいます。興味のある方は、ぜひ見学いらして下さい○盆踊りは、お盆の供養の踊りです。子ども会の朝練や大人の夜の練習を本堂で行っています○これから五山送り火・第八次四国八十八ヶ所巡拝・第二次坂東・台湾の三十三観音巡礼と旅が続きます○蕪崎大村美術館所蔵の私の絵が六月中旬迄展示されていました。これからは絵を描く時間を持たたいです○早朝坐禅会・写経会等に多勢の方々が来られています○蒸し暑い日が続きます。熱中症にも十分お気をつけ下さい。山内一同おかげさまで元気になっています。お身体大切に。 要子

龍雲寺 花園会報

二〇一四年 お盆号 監修/細川 晋輔 編集/細川 要子

○妙心寺 URL <http://myoshin.com/>
○龍雲寺 URL <http://homecatv.ne.jp/r/ryuunji/>

〒一五四一〇〇三三
東京都世田谷区野沢三三三八一

TEL〇三三三四二一〇二三三八
FAX〇三三三四一八一九八六三

いよいよ暑い夏がやって参りました。龍雲寺でも「お盆の棚経」や「盂蘭盆施餓鬼会」、「盆踊り」という大きな行事を控え、その準備に明け暮れております。

その中でも七月十七日に行っております「盂蘭盆施餓鬼会」といものは、調べてみますと、はるか昔、聖徳太子の時代から行われているそうで、「盂蘭盆」の由来にはこのようなお話があります。

お釈迦様には十大弟子と呼ばれる十人の優秀なお弟子さんがあり、その中でも「神通第一」と呼ばれ、神通力(超能力)が得意な目蓮尊者という方がおられました。

目蓮尊者はあるとき、亡くなった自分の母親が何をしているかふと気になり、神通力で覗いて見るとにしました。するとお母さんは餓鬼道にいて、骨と皮ばかりにやせ衰えていました。それを憐れに思った目蓮尊者は、得意の神通力を使って、水や食べ物や器に盛り、お母さんに差し出します。しかし、お母さんが食べようとすると、その食べ物や水は炎に変わってしまい、食べることができません。

目蓮尊者は悲嘆のあまり号泣し、お釈迦様の廻へ行き、ありのままにお話ししました。お釈迦様は「お母さんを助けようとするのに、いくらおまえの神通力でも通用しない。多くの出家者を修行一区切りする七月に供養すれば、お母さんに供

新命住職 細川 晋輔

養を届けることができるよ。」とおっしゃいました。そこで目蓮さんは、教えられたとおりに棚をつくり、お供え物をしました。そして沢山のお坊さんを集めて供養をしました。これはただ一人、自分の母親だけを助けようとしても救うことが出来なない。悩み苦しんでいる沢山の人々を救おうとして、初めて自分の母親が救われるという教えです。

その後、目蓮尊者がお母さんを神通力で見てみると、その供養の甲斐があつて餓鬼道から救われていたそうです。そして、目蓮尊者は嬉しさのあまり踊り出し、それが「盆踊り」のはじまりだと云われています。

「あまねく一切のもののためにご供養する」というこの行事。みなさんにおかれましても、一体何ができるかを考えて頂くきっかけとなつて下されば幸いです。

是非この由緒ある、「盂蘭盆」と「盆踊り」という行事、ご参加下さい。

盂蘭盆施餓鬼会

平成二十六年七月十七日(木)
於・龍雲寺本堂
十一時 御詠歌奉詠
十一時三十分 法話
正午 法要
※お食事を用意しています。皆様おそろいでお参り下さい。申し込み不要。

行事予定

- 七月 十七日(木) 施餓鬼会
- 八月 一日(金) 三日(日) 盆踊り大会(環七駐車場)
- 八月 十五日(金) 十七日(日) 第九次妙心寺と五山送り火の旅
- 九月 二十三日(火) 彼岸会
- 十月 四日(土) 第十一回天満敦子 バイオリンコンサート
- 十月 十五日(水) 十七日(金) 全国奉詠大会
- 十月 二十七日(月) 三十日(木) 第二次坂東三十三観音巡礼②
- 十一月 十七日(月) 二十一日(金) 台湾三十三観音巡礼
- 十二月中旬 龍雲寺子ども会 餅つき大会
- 十二月三十一日(水) 除夜の鐘
- 一月 七日(水) 大般若会

妙心寺派東京教区花園会 大本山奉仕団参の旅

— 妙心寺作務奉仕および大徳寺、
伊勢神宮参拝の旅 —

第一日目、団参は総勢一三八名にも上り龍雲寺からは四八名の参加者でした。妙心寺に到着後十四時から開会式・記念撮影、作務を行いました。作務はグループ毎に山門、仏殿、法堂、大方丈の床や、柱を拭き掃除しました。私たちは「法堂」の割り当てとなり、管長様が説法をする法座の下で堂内のお掃除をし、天井の「八方睨みの龍」に見惚れながら作務を終りました。また、薬石（夕食）後に塔頭・退蔵院様の夜桜見学があり、ため息が出るほど美しい世界を鑑賞させて頂きました。

第二日目、五時半起床、六時から法堂に入り坐禅。七時から嶺興嶽管長の歓迎の辞と法話が有りしました。朝食は「粥座」というお坊さんの食事作法を体験し、朝食後は、妙心寺の広い境内や浴室、黄鐘調の鐘の辺りを掃除して作務が終了。それから、妙心僧堂（修行道場）を新命さんに案内して頂きました。紫野の大徳寺見学では、山門の金毛

閣に特別に登らせて頂き、秀吉から切腹を命じられた要因となった千利休像と、天女や羅漢像、天井龍を見学し、京都を後にしました。

第三日目、金剛証寺と伊勢神宮参拝。金剛証寺は伊勢神宮の鬼門を守るお寺で、祈祷堂の中に入ると大きな柱と直径が五メートルもある「天蓋」が、すべて金箔で作られていて目を見張りました。旅の最後は、伊勢神宮にバスを進め、お神楽殿でのご祈祷をして頂き、内宮の皇大神宮（天照大神）で特別参拝を済ませて五十鈴川を後にしました。神宮会館で昼食をとり、「おかげ横丁」での散策と買い物すませ帰路につきました。参加者全員が東京を発つ時のお顔に比べて、帰りの車中での顔は笑顔で明るく和やかであったと思います。

私は今回の団参の旅で、「人生で一番嬉しい感動の日」を体験できました。妙心寺で「心の文化」に接しながら、作務をさせて頂き、感動と感謝を覚えるしかありませんでした。連日の晴天にも恵まれ目的を達成でき、この感動をサポートしてくださった東京教区の和尚様方に心から感謝申し上げます。

（岡村 大）

お盆の支度はできましたか？

迎え火は、7月あるいは8月の12日か13日に、送り火は16日に焚いて行います。



生 菜 三 種	とうもろこし・なす・リュウリ・かぼちゃ・トマト・枝豆 など
乾 物 三 種	ひじき・わかめ・昆布・かんぴょう・高野豆腐・干し椎茸・そうめん など
菓 子	仏前だから饅頭でなければ、などという決まりはありません。亡くなった方が好きだったものや故人にゆかりの深いものなど、先祖の方を偲んで選んで下さい。
果 物	亡くなった方が好きだったものなどが良いでしょう。
洗 米	蓮の葉やサトイモの葉を敷いて、洗ったお米の水をよく切ってお供えます。茄子を刻んだものを混ぜる地方もあります。毎朝取り替え、分量はぐいのみ一杯ぐらいでいいでしょう。前日のお米は、小鳥や池の魚などに施して、粗末にならないようにしましょう。
お 水	少し深さのあるお皿に、毎朝お水をお供えて下さい。南天などの枝葉を置いておき、その草の先に水をつけて水を軽く散じます。取り替えたお水は、庭の草花にあげて下さい。
牛 と 馬	ご先祖さまの乗り物とされています。牛馬の体はナスおよびキュウリで、目は小豆、足は麻ガラなどで作ります。牛馬の食事もお供えされると、良いでしょう。

【お盆の供え物】（地域で異なりますので参考してください）
むかえだんご おはぎ そうめん おくりだんご

※こちらはあくまで参考です。今までどおりでも何の問題もありません。（龍雲寺）
「見てわかる仏事」臨済宗青年僧の会編集より



東京教区花園会奉仕団 大本山妙心寺参拝記念 平成26年4月12日

◆龍雲寺厚木墓地のご案内

開修寺墓苑内に龍雲寺檀徒用の墓地を造成しました。龍雲寺檀徒としてお付き合いをさせて頂きます。

- A（一五〇×一五〇）永代使用料一二五万円
 - B（二五〇×一四〇）永代使用料一二四万円
- ABとも納骨棺、塔婆立、拝石等の外構工費を含みます。

このままで直ちに納骨できます。右記の額を直接お寺にお納め下さい。詳細につきましては龍雲寺まで。

◆納骨堂（お遺骨一時預り 無料）

墓地をお持ちでない方や転勤の多い方、将来落ち着き先がわからない方たちが、ご不幸があつて慌てて墓地を買われないように、落ち着いて考える時間を持って下さるようという考えで十数年前に納骨堂を本堂の裏側に建てました。いつもお参りの方がいらしています。

◆NPO 東日本大震災復興支援 「浜ばっぱのぞうきん」

※龍雲寺にて浜ばっぱのぞうきんを置いてあります。
一組四〇〇円

募集中

詳しくは龍雲寺まで
お早めにお申し込み下さい。

◆第二次 坂東三十三観音巡礼②

十月二十七日(月)～三十日(木)

満願の旅

◆無相教会花園流御詠歌会員募集

九月 九日(火)・十月 九日(木)
十一月十三日(木)・十二月二十五日(木)

男性・女性どちらでも可

会費は無料、お弁当代六百円のみ。貸出用の御詠歌のお道具有り、見学自由、全員イス席で講習を受けます。自主練習(不定期)。男性もどうぞ。
○他にも龍雲寺では囲碁の会・茶道部・法声会(長唄・三味線)・獅子舞・子ども会・かっぱれ・ヨーガ・ピラティス等があります。

◆早朝洗心坐禅会(申込不要)

毎週日曜日 朝六時半～八時半
会費 無料
坐禅用のイスもご用意しています。

◆写経会(申込不要)

毎月第二土曜日 一時～四時
(但し、七月、八月はお休み)
納経料は 一卷五〇〇円(龍雲寺に納経)来られない方は、お写経をお渡しいたしますのでご自宅でゆっくりお写経をどうぞ。
イス席もご用意しています。



◆第十一回 天満敦子ヴァイオリン・コンサート

日時 十月四日(土) 午後三時～
会費 三千五百円(当日集金)
会場 龍雲寺本堂(椅子席)
三時から整理券配布
お申し込みはFAX/電話・お葉書で。定員になり次第締め切ります。お抹茶・虎屋さんのお菓子・笹寿司をご用意しております。

編集後記

○皆様お元気ですか? ○第四七回龍雲寺盆踊り大会は皆様のおかげで盛大に行われました。盆踊りと夏祭りを同じと考える方が多く思いました。○第九回妙心寺と五山送り火の旅は、昼食は大法院様で。大徳寺塔頭の瑞峯院・真珠庵・聚光院様特別拝観後、貴船の川床へ寒い位で半天を借りて、すき焼きを。一六日は法堂で管長様ご導師の法要へ。
送り火の特別精進料理を食事中、携帯のエリア・メールが送信されましたが雨が止み送り火を拝めました。○一七日は団体参拝後、写経・写仏・念珠や器作りを花園会館で。連泊の会館で移動も少なく講習会や、お昼寝が出来、おやつもあり、承天閣美術館では若冲の名画や茶道具の名品鑑賞、新幹線車中での特別弁当等、又、来年も参加したいと皆様の声は、企画・引率の私にとって嬉しい事です。○お彼岸会の御萩の館は前日に大釜で薪で大納言を煮ます。高温でグツグツ煮え熱くて焦げないように煮詰めるのが大変です。お手伝いの沢山の方が、お皿や湯飲み等を洗って準備して下さいます。当日の朝五時に胡瓜を二〇〇本糠漬けにします。餅米は少量のお米を研いでいる方には、六百人分の餅米を洗うのは無理なので、お手伝いの方々が来て下さる前に一人で洗っています。○昔ながらの方法で古新聞を濡らしてちぎり箒で掃除をする。畳や廊下・階段が簡単に綺麗になります。○茶道具を中込様より沢山ご寄贈頂き展示に展示、他は茶道部で大切に使用させて頂きます。○山内一同おかげさまで元気にしています。お彼岸会でお目にかかれるのを楽しみにしています。お元気で。 要子

龍雲寺 花園会報

二〇一四年 秋彼岸号 監修/細川音輔 編集/細川要子

○妙心寺 URL <http://myoshin.com/>
○龍雲寺 URL <http://home.catv.ne.jp/r/ryuunji/>

〒一五四―〇〇〇三
東京都世田谷区野沢三―三八―一

TEL 〇三―三四二―一〇二三八
FAX 〇三―三四一―八九六三

「あいさつ」

閑栖住職 細川景一

今年の夏は暑いだけではなく、今まで体験したことのない、まさに異常気象が日本を襲いました。秋に向かって何とか落ち着いてもらいたいものです。

中国宋代の禅僧五祖法演禪師(一一〇四)が弟子が入寺するに当たり「およそ、院に住す、己がために戒むるもの」として与えた四つの「戒」が法演の四戒として伝えられています。

勢い、使い尽くす可からず
福、受け尽くす可からず
規矩、行い尽くす可からず
好語、説き尽くす可からず

「勢い、もし使いつくさば、福必ず至る」絶好調の幸運時こそ、知らぬ間に破局の種が蒔かれているのです。用心!用心!です。

「福、もし受けつくさば、縁必ず孤なり」

といいます。私達が恵まれた幸せをほしのままにしたら、たちまち枯渇してしまいます。

辛抱!辛抱!

「規矩(手本・規律)、行い尽くさば、人、必ずこれを繁とす」知りつくしていて知らないふり、学びつくしていて学ばないふり、行いつくして何もしないふり
何事も謙虚に!

「好語、説きつくさば、人必ずこれを易んず」いかなる好語でも、微に入り細にわたって説きつくされると、その味わいは半減す。「過ぎたるは及ばざるが如し」
何事も遠慮深く!

私達の日常生活の中に思いたるところがあるはずです。ご安心!ご安心!

秋季彼岸会法要

平成二十六年九月二十三日(火)

於・龍雲寺本堂

正午 御詠歌奉詠
午後十二時四十五分～法話
午後一時 三十分～法要
※お食事を用意しています。
どうぞお参り下さい。申込不要。

行事予定

- 九月 二十三日(火) 彼岸会
- 十月 四日(土) 第十一回天満敦子ヴァイオリンコンサート
- 十月 十五日(水)～十七日(金) 全国奉詠大会
- 十月 二十七日(月)～三十日(木) 第二次坂東三十三観音巡礼②
- 十一月 十七日(月)～二十一日(金) 台湾三十三観音巡礼②
- 十二月中旬 龍雲寺子ども会 餅つき大会
- 十二月三十一日(水) 除夜の鐘
- 一月 七日(水) 大般若会

「おはぎ」と「ぼたもち」

まだ私が妙心寺の修行道場にいた時代の話です。「茶礼 夜船」と書かれた紙がありました。「茶礼」とは平たく言えば「おやつ」のことで、修行僧は滅多にない茶礼のお菓子をみんな楽しみにしていました。「夜船」って一体何が出てくるのだろう・・・とドキドキしていましたが、出て来てみると「おはぎ」に他なりません。「おはぎ」は漢字で書くところなるのかと当時は気にもとめませんでした。実は夏に出す「おはぎ」は「夜船」と呼ばれるそうです。おはぎはお餅とは異なり、べったんと杵で搗きませんので音がしません。その「搗きしらす」から「着きしらす」となり、夜は船が何時港に着いたかわからないことから、「夜船」となったそうです。ちなみに、冬は月知らずから「北窓」と言うとか。

恥ずかしながら私は今年の五月まで、春も秋も「おはぎ」だと思っていたのですが、本山での布教講習会で、春は「ぼたもち」、秋は「おはぎ」ということを知りました。春は牡丹に見立て、秋は萩の花に見立てたものようです。江戸時代の百科事典「倭漢三才図会」には「牡丹餅および萩の花は形、色をもってこれを名づく」とあり、この説がもっとも一般的だそうです。母に聞いたら、勿論知っていて「おはぎはぼたもちより気持ち小さく作るのよ」と言っていました。

龍雲寺で行う秋の彼岸会では、母をはじめお手伝いの方々が心を込めて1200個以上の「おはぎ」を作って下さいます。秋にしか味わえない「おはぎ」の味を楽しんで頂き、その後お参りして下されば幸いです。みなさまのお参りをお待ち申しあげております。(晋)

野沢稲荷神社のお祭り

今年も野沢稲荷神社の御神輿が龍雲寺にやってきました。

前日はお宮でビング大会などがあり、私もテッシーを頂きました。ありがとうございました。昔は御神輿の日になると、おじさん達が朝5時からいからお寺の台所ですっぽい塩にぎりを沢山作っていました。中には作り終わった頃に「これだけ作っていると、手がキレイになるな」と皆さんと笑っていました。私も35才ですから、あれから30年くらいたつんですね。

お寺と神社との組み合わせは不思議に思われるかも知れませんが、そもそも日本は八百万の神々が尊ばれていた世界でありました。そこに朝鮮半島から仏教が伝来してお互いに共存して、日本の仏教が作られて来たわけです。神仏混交・神仏習合とも言われますが、仏教と神道とが敵対せずに尊崇されているという日本らしい素晴らしいところですね。

だからこそ、お寺としても御神輿が来て下さると嬉しいし、お宮のお祭りにも参加する。これが日本の良さであり、守り続けていかなくてはと思っています。

地元の方はもちろん、若い方も沢山参加して頂いても盛大な御神輿でした。盆踊りが終わって、野沢稲荷の御神輿が終ると、いよいよ夏も終わり秋の足音が聞こえてきます。



(細川晋輔)

東京禅センター 科学と仏教の接点

臨済宗妙心寺派東京禅センターは、野沢龍雲寺会館内に設けられ、東京近郊の方々を対象に、臨済禅に接してもらうために活動しております。一般の方から寺院の住職まで様々な講座を開いております。大学との共催による公開講座等も開いておりますので気軽にご参加下さい。

科学と仏教の接点13

「宇宙を満たす不可思議の海、私たちは世界を正しく見ることができているのか」

- 【日程】平成26年10月11日(日)午後2時～5時
- 【講師】井元信之先生(大阪大学大学院教授)
- 【会場】佐々木閣先生(花園大学文学部仏教学科教授)
- 【会場】東京大学駒場キャンパス
- 【会費】無料

第4回 禅とキリスト教の出会い

- 〜現代の宗教間交流から見えてくる今〜
- 【日程】平成26年10月26日(日)午後2時～5時終了
- 【講師】リーゼンパー神父(上智大学名誉教授)
- 【会場】安永祖堂先生(花園大学文学部国際神学教授)
- 【会場】聖イグナチオ教会(JR四ツ谷駅徒歩1分)
- 【会費】無料

【申込方法】

事前予約制 住所・氏名(ふりがな)・電話番号・講座名を明記の上、メール zen@myoshin-zen-c.jp・ハガキ・FAXにてお申し込みください。

お問合せ先/東京禅センター
FAX 03-5779-3801 MAIL zen@myoshin-zen-c.jp
〒154-0003 東京都世田谷区野沢3-37-2 龍雲寺会館内

『十牛図』について

四、得牛(牛を得る)
「荒牛を 引きゆく路や 花いばら」
三の「見牛」のところで見つけた牛(本当の自分)を我が物にするために、寝たり食べたり働いたりというような日常生活の着衣喫飯に至るまで、努力精進して修行に励むところ。ここに、雪丸老師は「荒々しく厳しい中にも、どことなく茨の木に花がさいたようなすがすがしさがある」とおっしゃっています。
やっとの思いで見つけた牛。しかし、見つけたことに油断しては再び牛を見失ってしまいます。牛を離さないためにも手綱を引き続けなければならぬ。努力精進し続けることは、とても大変なことかもしれません。しかしそのことは間違いない牛との、つまり本当の自分との絆になるはず。いつかは牛を自分のものとして飼いつづけていけると信じて、手綱を放さずに生きていく。この生き方にこそ、すがすがしさがあるのではないのでしょうか。(晋)



坐禅体験!

初心者向けの坐禅体験講座です。脚の組み方、呼吸の仕方等、坐禅の初歩から学べます。20分程度の坐禅を2〜3回座り、最後に茶礼(お茶とお菓子)を致します。

- 【日時】毎週水曜日 午後1時半～午後3時
- 【会場】龍雲寺会館ホール
- 【会費】500円

◆龍雲寺厚木墓地のご案内

開修寺墓苑内に龍雲寺檀徒用の墓地を造成しました。龍雲寺檀徒としてお付き合いをさせて頂きます。

- A (一五〇×一五〇) 永代使用料一・二五万円
- B (一五〇×一四〇) 永代使用料一・四万円
- ABとも納骨棺、塔婆立、拜石等の外構工事を含まれます。

このままで直ちに納骨できます。右記の額を直接お寺にお納め下さい。詳細につきましては龍雲寺まで。

◆納骨堂 (お遺骨一時預り 無料)

墓地をお持ちでない方や転勤の多い方、将来落ち着き先がわからない方たちが、ご不幸があつて慌てて墓地を買われないうちに、落ち着いて考える時間を持つて下さるようという考えで十数年前に納骨堂を本堂の裏側に建てました。いつもお参りの方がいらしています。

◆NPO 東日本大震災復興支援 『浜ばっぱのぞうきん』

※龍雲寺にて浜ばっぱのぞうきんを置いてあります。 一組四〇〇円